

新たな価値を生む基盤

A foundation for generating new value

現代に生きる創業の理念。  
製品はさらに進化し、  
新事業へ展開。

新しいことが好きで、人からよこばれることが自身のよこごびでもあった創業者の気質は、現代にも受け継がれています。顧客に寄り添い、新しいことに挑み、感謝されるよこごびを原動力としてニッタは成長してきました。そして今も、顧客や社会ニーズに応え、開発と改良を繰り返し、進化したさまざまな製品がニッタには溢れています。

機械の大型化等の需要構造の変化に対応して、1959年にクローム革とナイロンシートの積層ベルトとして高張力と耐久性に優れたレシコンベルトが開発されました。さらに1963年にはポリベルトが開発され伝動用高級平ベルトメーカーとしての地位を築きました。そして動力伝動用として開発されたベルトは、搬送用ベルトに改良され、現在急成長しているeコマースの領域で需要が拡大しています。

ニッタの強みは、成長市場の萌芽期において、リードユーザーからの顕在化された悩みに応えることにあります。難しい課題にも決してあきらめず、営業と技術が一体となって顧客ニーズに応え続ける。それがニッタな市場でトップシェアを獲得することにつながっています。

半導体製造装置用製品はその好例で、クリーンチューブや研磨パッド等、日本が強い「装置の製造」の分野に深く入り込み、永年にわたって高いシェアを誇っています。またその技術を活かし改良することで、チューブ製品はトラックの排ガス抑制装置の部品の他、ユニークなところでは居酒屋やレストランにあるビールサーバにも活用されています。数々のイノベーションが生まれ、そこから改良された技術や製品が、



日本初の固形タンニンを製造した「新田帯革 十勝製皮工場」の跡地。創業者はこの工場を1911年に設立。樹幹部からタンニンを抽出する方法を実用化する等、森林資源をより有効活用できるように技術開発を重ねた。現在は、「新田の森」として一般に開放されている。

また新しい分野へと広がる。このように「発明」と「改良」が100年以上にわたって続けられているのです。

そして、もうひとつ重要な理念が「円満」で、お客様、お取引先、株主、従業員、地域社会等、全てのステークホルダーを大切に考える考えとなり企業文化として根付いています。創業者は環境問題への取り組みにも積極的でした。製革に使うタンニンを採取するため樹(かしわ)の樹を伐採しましたが、その分植樹も行っていたのです。さらに樹の樹を無駄なく使うために「ベニヤ」板を開発する等、エコシステムを採り入れた事業を推進していました。近年ではESGやSDGsの考えや価値観が浸透していますが、ニッタは創業当時から、事業活動の中心に社会貢献が据えられており、その意識が社員にも浸透しています。ニッタグループの社員は、自分たちの仕事が社会の役に立ち、誰かの幸せにつながるということを常に目指しています。

そして未来へ。  
ステークホルダーとの信頼関係が  
大きな推進力。

ニッタグループがさらなる成長を目指すためには、「日本にないものをつくる」というチャレンジ精神や、「ものづくりを通して社会の役に立ちたい」という想い等、創業当時の理念や価値観をさらに昇華させることが重要です。そこで、価値創造の歴史を未来へ継承するために、2017年、あらためてニッタグループ理念を策定いたしました。「NITTAは動かす、未来へ導く製品で。世の中を前へ、そして人々を幸せに。」

仕事を通して人々を幸せにできることは社員にとっても幸せで、そうした一人ひとりの想いがニッタグループの成長の原動力となります。そのことをあらためて心に刻み、未来へ挑む強い決意を示すメッセージとなっています。

また中長期経営計画「SHIFT2030」は創業の理念を礎(いしずえ)としながら、変化への挑戦、変革への決意が込められています。「SHIFT2030」で掲げる新市場や新事業の「探索」とはイノベーションであり「発明」に通じています。既存の技術や製品にさらに磨きをかけて深掘りしていくことは「改良」、そして、持続可能な社会づくりに貢献する事業活動でステークホルダーと「円満」な関係を構築することを目指しています。これは、お客様、お取引先、株主、従業員、地域社会等、全てと良好な関係をもつという「ステークホルダー資本主義」そのものです。誰かの役に立つことが働くことの本質でありよこごびで、それを糧として挑戦を続ける。そんな創業の理念を次世代へ継承し、未来への価値創造を加速させていくための計画です。そしてこの計画

の実現には、何よりもステークホルダーとの信頼関係が大きな推進力となります。ニッタグループでは常に「感謝」を伝えることを大切にしています。

例えば、営業スタッフは直接お客様からお礼や感謝の言葉をよく掛けていただきます。それを自分だけで止めずに、ともに働くスタッフやグループ、取引先につなげることで、お互いが感謝しあえる関係性を築き、また「人々の幸せ」が広く伝播することを目指しています。

創業者は「円満」な関係性がなくては「発明」や「改良」はできないと伝えています。全てのステークホルダーとの信頼関係があるからこそ、ニッタグループは果敢に挑戦し続けることができるのです。

「発明」「改良」「円満」から、「SHIFT2030」へ。

価値創造の理念、そしてものづくりへの想いは、137年経った現在もニッタグループを支え続け、そして未来へ、世界へとつながっていくものと確信しています。



時代の変化に対応し技術を進化させてきた歴史

<p>(株)新田帯革製造所を新田ベルト(株)へ社名変更</p> <p>1965</p>	<p>米社と合併で(有)ニッタ・ムアーカンパニーを設立(その後1992年に株式会社に組織変更、2009年に吸収合併)</p> <p>1968</p>	<p>米社と合併でユニッタ(株)を設立(現ゲイツ・ユニッタ・アジア(株))</p> <p>1971</p>	<p>新田ベルト(株)をニッタ(株)に社名変更</p> <p>1982</p>	<p>米社と合併でロデール・ニッタ(株)を設立(現ニッタ・デュボン(株))</p> <p>1983</p>	<p>株式を店頭市場に登録(その後、大阪・東京証券取引所市場第二部上場を経て、1997年に第一部銘柄に指定)</p> <p>1990</p>	<p>浪華ゴム工業(株)ニッタ化工品(株)を株式取得により子会社化</p> <p>2017</p>	<p>中長期経営計画(SHIFT2030)をスタート</p> <p>2021</p>	<p>プライム市場に移行</p> <p>2022</p>
<p>1963</p>  <p>伝動用ゴムベルト「ポリベルト」販売開始。産業機械の進化にマッチした新素材のベルトの開発</p>	<p>1966</p>  <p>海外メーカーより、タイミングベルト、樹脂ホース・チューブの輸入販売開始</p>	<p>1974</p>  <p>精密伝動・搬送用ベルト「スーパーエンドレスベルト」販売開始 高速・精密伝動搬送を実現</p>	<p>1984</p>  <p>研磨パッド、スラリー(現ニッタ・デュボン社)販売開始 海外技術の導入</p>	<p>1988</p>  <p>ATC(自動工具交換装置)販売開始 ロボットの多能工化を実現</p>	<p>1992</p>  <p>圧力分布測定システム販売開始 圧力センシング技術の先駆けとして、幅広い分野で貢献</p>	<p>And to the future.</p>		